

国際化学肥料ニュース（2025 年 9 月）

肥料業界の 2025 年 9 月動態

- * イギリスの調査会社 Argus 社のデータによれば、インドの DAP 輸入が順調で増加し、9 月初め現在の DAP 在庫量は約 220 万トンに達した。インドの 8 月 DAP 輸入量は前月比で微増の 102 万トンとなり、2023 年 6 月以来の月間最高輸入量となった。1～8 月の輸入量 348 万トンで、前年同時期の 209 万トンを大きく上回っている。インド政府は、最大の輸入先である中国が DAP 輸出を規制する間に他国からの DAP 輸入を奨励している。

在庫の増加により、インドの DAP 輸入業者は交渉においてより有利な立場に立つことができ、RCF 社は 9 月にロシア産 DAP 3 万トンを CFR 806 ドル／トンで契約し、インド政府が推奨する上限価格である CFR 806 ドル／トンを下回る。インドは、第 4 四半期の季節的な需要増加に備えて、在庫をさらに増強するために大量の輸入を維持する必要がある。

- * 9 月 2 日に開札されたインド NFL 社の尿素国際入札では約 560 万トンが応札され、最低応札価格は Aditya Birla 社の CFR 東海岸 462.45 ドル／トンと CFR 西海岸 464.70 ドル／トンである。前回 8 月 4 日に開札されたインド IPL 社の最低応札価格より約 70 ドルも下がった。

- * エチオピアの国営 EABC 社は 2025～2026 肥料年度の DAP 国際入札を行う。購買数量 54.9 万トンで、6.1 万トンずつ 9 ロットに分けて、ロットごとに FOB および/または CIF ベースで応札すると決定する。入札は 9 月中旬締切りである。

EABC 社は 2024 年 9 月 9 日に 2024～2025 肥料年度の DAP 国際入札を行い、36 万トンを契約した。その後も断続的に DAP の入札を複数回行った。

- * ベラルーシ政府の発表によれば、2025 年 1～8 月の塩化加里輸出量が前年比で 16% 増の 800 万トン以上に達し、経済制裁前の水準に回復した。その内訳はロシアの Bronka 港経由で 420 万トン、Sankt Peterburg 港と Ust Luga 港経由で 310 万トン、鉄道で中国へ 70 万トンを輸出した。

- * イギリスの調査会社 Argus 社のデータによれば、ブラジルは 2025 年 1～8 月の硫安輸入量が 2024 年同期より 59% 増の約 380 万トン、新記録となった。硫安の 99.9% が中

国からの輸入である。特に 8 月の硫安輸入量が前年同期より 34%増の 91.6 万トン、月間輸入量としては最多となる。

一方、1～8 月の尿素輸入量が 2024 年同期より 16%減の約 370 万トン、2019 年以來の最低水準である。8 月の尿素輸入量が 19%減の 61.2 万トン。尿素的国際価格相場の高騰と供給の不安定により、硫安は価格に魅力があるうえ、供給の安定さも評価され、高水準の輸入と使用に貢献している。この傾向は 2022 年以降強まっているという。

ほかに 1～8 月の硝安輸入量が 5%増の 69.5 万トンである。

* 9 月 2 日に開札されたインド NFL 社の尿素国際入札は CFR 西海岸 464.70 ドル／トン、CFR 東海岸 462.45 ドル／トンで計 203 万トン尿素を契約した。その内中国尿素 70～80 万トンが含まれている。今年インドの尿素国際入札に初めて中国尿素が落札した。

* 9 月第 2 週（8～14 日）の尿素国際相場は地域により異なる。北アフリカではインド NFL 社の尿素国際入札契約数量により、在庫が大幅に減らされたため、エジプト尿素的 FOB 価格が 430～450 ドル／トンに回復し、アルジェリア尿素も下げ止まっている。しかし、ほかの地域は小幅な下落が続いて、特に中東と中国尿素的の下げ幅が大きくなった。CFR ブラジル価格が 435 ドル／トンに下がった。

* 中国税関の速報によれば、2025 年 8 月の中国化学肥料輸出量が 26.0%増の 509 万トン、その内訳は尿素が 2666.7%増の 80 万トン（去年同期が 3 万トン）、硫安が 11.0%減の 186 万トン、DAP が 9.8%減の 55 万トン、MAP が 63.0%増の 44 万トン。

8 月の中国化学肥料輸入量が 20.0%減の 84 万トン、その内訳は塩化加里が 18.5%減の 75 万トン、NPK 化成肥料が 20%減の 8 万トン。

* 9 月 11 日、ヨルダンの APC 社は中国国営 Sinofert 社との間にヨルダン産塩化加里の中国に於ける独占輸入販売契約を 2028 年まで延長することを発表した。この契約は 2022 年に両者間で締結されたもので、有効期限が 2025 年までの 3 年間であるが、さらに 3 年間延長することになる。なお、2023～2024 年の 2 年間、APC 社が中国に計 110 万トン塩化加里を輸出した。

* 9 月 23 日、バングラデシュ政府は 9.5 万トン化学肥料の輸入案件に対して、外貨支出を許可した。工業省から提出した 2 件の案件は、サウジアラビアの SABIC 社から CFR 価格 447.50 ドル／トンで 3 万トン尿素を購入するものと Kafco 社から CFR414.87 ドル／トンで 3 万トン尿素を購入するものである。バングラデシュ農村開発公社（BRDB）

から提出した案件はロシアの **Prodintorg** 社から **CFR361** ドル／トンで **3.5** 万トン塩化加里を購入するものである。

- * 9 月第 4 週（22～28 日）の尿素国際相場は引き続き下落している。東半球では中国尿素の大量輸出により、市況が急落し、東南アジア産大粒尿素の **FOB** 価格が **395** ドル／トンに下がった。中東も同じで、大粒尿素の **FOB** 価格が **410** ドル／トン台、イラン産大粒尿素がさらに安く、**FOB360～370** ドル／トンに下がった。

西半球では **EU** の需要が低迷で、南米だけが頼りとなる。エジプト産大粒尿素の **FOB** 価格が **430～440** ドル／トンで安定しているが、ナイジェリア産大粒尿素の **FOB** 価格が **400** ドル／トン台に下落した。南米では大粒尿素の **CFR** ブラジル価格が **420～440** ドル／トンで、**CFR** アルゼンチン価格が **450** ドル／トンに小幅に下がった。

- * 中国政府は **2025** 年の尿素輸出検査の申請期間について、**10 月 15** 日までと変動しないが、輸出が許可された後、荷物を **2** か月以内に輸出すればよいと新たに決定された模様。これは **6** 月から尿素輸出が解禁され、最初の輸出割当数量 **200** 万トン、その後 **2** 回も追加して、最終の輸出割当数量が **420** 万トンに増えたが、**6～8** 月の **3** か月間に **144** 万トンしか輸出されず、**9～10** 月に残りの **270** 万トン以上の輸出が不可能と見て、輸出可能期間を延長したと推測される。
- * **10 月 1** 日、インド **RCF** 社は新の尿素国際入札を行うことを発表した。**10 月 15** 日締め切りと開札、**12 月 10** 日まで船積みという条件で、購買数量未定。これは今年インド **7** 回目の尿素国際入札である。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * オーストラリアの **BCI Minerals** 社は **2026** 年から西オーストラリア州の **Pilbara** 地域に硫酸加里のパイロット工場を建設することを発表した。これは **Mardie** 塩湖の鹹水を原料に硫酸加里を生産するもので、建設期間 **1** 年、完成後 **1** 年の試運転を行い、**Mardie** 硫酸加里プロジェクトに必要なデータを収集するものである。**Mardie** 硫酸加里プロジェクトが完成すれば、年間硫酸加里生産能力 **14** 万トンに達する。
- * オーストラリアの **Salt Lake Potash** 社は年間生産能力 **20** 万トンの **Lake Way** 硫酸加里プロジェクトを完成し、稼働し始め、**9** 月から硫酸加里を輸出することを発表した。これはオーストラリア初の稼働する加里鉱山である。

- * パキスタンの Barket Fertilizer 社は Port Muhammad Bin Qasim 工場に 4 番目の硫酸加里ユニットを完成し、9 月 15 日から稼働したことを発表した。Port Muhammad Bin Qasim 工場にすでに 3 基のマンハイム法硫酸加里ユニットが設置され、今回の 4 番目のユニットの稼働で硫酸加里の年間生産能力が 5 万トンに拡大された。なお、2026 年にもう 1 基の硫酸加里ユニットを増設することも予定されている。

その他

- * 8 月 25 日、アメリカの米国地質調査所 (USGS) はアメリカ合衆国連邦政府の官報に加里を 2025 年重要鉱物リストに掲載することを発表した。修訂された 2025 年重要鉱物リストには 54 種類の鉱産物が掲載されている。USGS の事務総長 Kendra Russell 氏は加里を重要鉱物リストに載せる理由は世界の加里資源が偏在で、主要供給国のカナダが国際貿易上の理由で供給を滞る恐れがあると述べた。昨年 3 月、アメリカ上院議員らは加里肥料を内務省の重要鉱物リストに追加する法案を提出したことがある。
- * アルゼンチンの農業生産会社 Adecoagro SA はカナダの肥料会社 Nutrien が所有する南米最大の尿素メーカー Profertil SA の 50% 株式を 6 億ドルで買収することを発表した。Profertil SA はアルゼンチンの Bahía Blanca 市に尿素工場を有し、年間生産能力 79 万トンアンモニアと 130 万トン尿素、アルゼンチンの尿素消費量の約 60% を供給している。Profertil SA の残りの 50% 株式はアルゼンチン最大の石油・ガス生産者の 1 つである YPF SA が所有している。
- * ノルウェーの Yara 社はイギリスの低炭素肥料会社である ATOME が計画中の南米パラグアイにある Villeta 肥料プロジェクトから 100% 再生可能電力に基づく低炭素肥料を 10 年間にわたって年間 26 万トン購入するオフテイク契約を締結した。ATOME 社の Villeta 肥料プロジェクトは水力発電から作られるグリーンアンモニアを原料とする硝酸カルシウムアンモニウム (CAN) 肥料を生産する計画で、建設費用約 4 億 6,500 万ドル、2025 年末まで最終投資決定 (FID) および建設開始予定である。
- * カナダの Sage Potash 社はアメリカユタ州にある Sage Plain 加里プロジェクトの建設資金としてアメリカの農務省 (USDA) から 1400 万ドルの補助金を受け取ったことを発表した。ユタ州の Paradox 盆地に 20 億トン以上の加里資源があり、アメリカの加里資源の約 25% を占めている。Sage Plain 加里プロジェクトはそれを開発して、年間 30 万トン塩化加里を生産する計画である。

もう一つのアメリカ国内加里カリウムプロジェクトを開発している **Michigan Potash & Salt** 社は、トランプ大統領が加里を政府の重要鉱物リストに含めるよう命じる大統領令を出す直前の 1 月に連邦政府の資金援助を受けていた。

* 9 月 10 日、イギリスの自然問題担当特別代表 **Ruth Davis** 氏とブラジルの農業副大臣 **Cleber Oliveira Soares** 氏は両国が肥料生産をより持続可能かつ効率的にする覚書に署名した。覚書の主な内容は肥料研究とイノベーションにおける協力の強化、サプライチェーンのレジリエンス向上、そしてベストプラクティスの共有などにより、持続可能な肥料の生産と利用に関する国際的な協力を強化する取り組みの一環として行われるものである。COP 30 を前にイギリスとブラジルの世界的な環境リーダーシップを示すものでもある。COP 30 では、肥料に関する政府と国際機関の協力を強化する計画が強調される予定である。

* インド政府は消費税に当たる付加価値税（GST）を改正した。化学肥料の生産に使う原材料（アンモニア、硫酸、硝酸など）の税率は 18% から 5% に引き下げ、微量元素肥料の税率も 12% から 5% に引き下げる。付加価値税の引き下げは国内の化学肥料生産コストの削減、競争力の向上に促し、国内生産量を増やして輸入量を減少させることを通じて、食糧安全保障に役立つという目的である。